



## 平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月4日

上場会社名 株式会社 トーモク

上場取引所 東 札

コード番号 3946 URL <http://www.tomoku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 斎藤 英男

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 内野 貢

四半期報告書提出予定日 平成27年11月9日

配当支払開始予定日

TEL 03-3213-6811

平成27年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	68,663	0.3	△50	—	367	3,742.7	△3	—
27年3月期第2四半期	68,488	△0.4	△294	—	9	△99.6	△277	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 28百万円 (—%) 27年3月期第2四半期 △90百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	△0.04	—
27年3月期第2四半期	△2.97	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	140,781	—	52,448	—	—	35.7
27年3月期	139,240	—	52,732	—	—	36.4

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 50,278百万円 27年3月期 50,736百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
28年3月期	—	3.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	155,000	4.3	5,800	46.0	6,000	40.9	3,000	185.6	32.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	96,707,842 株	27年3月期	96,707,842 株
28年3月期2Q	3,273,953 株	27年3月期	3,267,625 株
28年3月期2Q	93,436,864 株	27年3月期2Q	93,455,584 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しました。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等について、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新興国経済の減速の影響が見られるものの、企業部門では積極的な設備投資スタンスが維持されており、家計部門でも雇用・所得環境の着実な改善を背景に個人消費は底堅く推移するなど、緩やかな回復を続けています。

その中で当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は68,663百万円（前年同期比0.3%増）、経常利益は367百万円（前年同期は経常利益9百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3百万円（前年同期の親会社株主に帰属する四半期純損失277百万円）となりました。

セグメントの業績は次の通りです。

#### [段ボール]

段ボールの需要は、国内経済が緩やかな回復傾向にある中、食品向けや通販・宅配向けなどの需要増により生産量が前年同期を上回りました。

当社グループの段ボール生産量は、神戸工場の稼働や前年の雪災を受けた館林工場の復旧もあり前年同期を大きく上回りました。

長野地区の段ボール需要に対応し、予てより保有していた土地に物流及びBCP対応をはかるため、来春の稼働を目指し、高品質、高効率、高付加価値の新しきビジネスモデルに取り組む長野工場を建設中であります。

昨年2月の大雪により被災した館林工場は、加工場を労働環境に配慮した工場に建替えるとともに生産性と品質の向上を目指して最新鋭の加工機に更新いたしました。更に、高度のIT化をはかるため、事務棟を建設しております。今年3月に神戸市西区に省エネルギーで環境負荷や景観に配慮した神戸工場に当社独自技術による世界最新鋭の設備を導入し、稼働を開始しました。また、浜松工場では、加工の生産能力増強と品質強化を目的に最新鋭の加工機に更新しました。

当社は、お客様のニーズが高度で多様化した加工食品向け製品を主力とすることから、最高水準の品質創りと生産力の強化を積極的に推進し、更なる内部コストの低減に努めるとともに、神戸工場に製造技術全般と現場力を鍛錬する場としての「錬匠館Ⅱ」を開講するなど、基盤となる新技術の開発、労働環境の改善、人材育成にも引き続き取り組んでおります。

段ボールでは、製品価格の軟調などの影響がありましたが、販売量が伸長し売上高は43,941百万円（前年同期比7.6%増）となり、営業利益は新工場稼働による減価償却費の増加や輸送コストの高騰もあって、2,093百万円（同0.4%減）に留まりました。

#### [住宅]

住宅市場においては、景気回復による雇用・所得環境の着実な改善に加えフラット35Sの金利優遇幅拡大や省エネ住宅ポイント制度などの政府による様々な住宅市場活性化策などにより新設住宅着工戸数は前年比増加傾向にあります。

スウェーデンハウス㈱は高性能へのこだわりと「価値の持続する家づくり」を基本にオリコン顧客満足度No.1を積極的に訴求するとともに、住まいの原点に立ち返えるこだわりのライフスタイル「ヒューズ プレミア ゴーデン (hus Premie Gården)」の販売などを通して高級ブランドイメージの拡大並びに紹介受注の増大、高級層への一層の浸透など、販売強化に取り組みました。4月の広島市中区に吉島モデルハウスの出店に続き、7月には新潟市西区に新たに新潟モデルハウスを出店しました。

前々期からの期ズレ棟数もなくなり、販売棟数が減少し売上高は13,495百万円（前年同期比17.9%減）になりました。調達コストや内部コストの削減に努めましたが、売上が下半期に集中し上半期はコストが先行するという住宅事業の特性もあって、営業損失は2,460百万円（前年同期は営業損失2,564百万円）となりました。

#### [運輸倉庫]

運輸倉庫においては、トーウンサービス㈱が今年3月の神戸工場の稼働に伴い神戸営業所を開設したほか、夏場の猛暑により飲料部門を中心とした取扱数量の増加などにより売上高は11,226百万円（前年同期比0.2%増）となりました。物流業界のドライバー不足などによるコストの増加がありましたが内部コストの削減に努め、営業利益は716百万円（同34.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金やたな卸資産などの増加により前連結会計年度末比1,541百万円増加し140,781百万円となりました。負債は1年内返済予定の長期借入金の増加などにより前連結会計年度末比1,825百万円増加の88,332百万円となり、純資産の部は利益剰余金の減少などにより前連結会計年度末比284百万円減少の52,448百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、平成27年5月7日に発表いたしました業績予想の達成に努めてまいります。今後、業績予想数値に修正が生じる場合は速やかに公表いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,813	8,420
受取手形及び売掛金	25,361	27,826
たな卸資産	11,607	14,589
その他	6,308	6,236
貸倒引当金	△83	△160
流動資産合計	55,007	56,912
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	23,978	23,828
機械装置及び運搬具（純額）	16,953	14,922
土地	25,440	25,561
その他（純額）	1,756	3,321
有形固定資産合計	68,128	67,632
無形固定資産	442	388
投資その他の資産		
投資有価証券	10,731	10,897
その他	5,221	5,258
貸倒引当金	△290	△307
投資その他の資産合計	15,662	15,848
固定資産合計	84,233	83,869
資産合計	139,240	140,781

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,909	14,875
短期借入金	2,254	2,254
1年内返済予定の長期借入金	2,035	4,878
未払法人税等	261	1,131
賞与引当金	1,438	1,583
その他の引当金	298	237
その他	15,719	15,930
流動負債合計	37,917	40,890
固定負債		
長期借入金	39,245	38,186
退職給付に係る負債	3,429	3,458
その他の引当金	593	612
その他	5,322	5,185
固定負債合計	48,590	47,442
負債合計	86,507	88,332
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,669	13,669
資本剰余金	11,138	11,138
利益剰余金	23,400	23,116
自己株式	△682	△684
株主資本合計	47,526	47,241
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,913	1,785
為替換算調整勘定	214	224
退職給付に係る調整累計額	1,082	1,027
その他の包括利益累計額合計	3,210	3,037
非支配株主持分	1,995	2,170
純資産合計	52,732	52,448
負債純資産合計	139,240	140,781

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	68,488	68,663
売上原価	56,909	56,897
売上総利益	11,579	11,765
販売費及び一般管理費	11,874	11,816
営業損失(△)	△294	△50
営業外収益		
受取利息及び配当金	89	109
持分法による投資利益	175	306
雑収入	263	221
営業外収益合計	528	638
営業外費用		
支払利息	115	89
固定資産賃貸費用	52	63
雑損失	56	67
営業外費用合計	223	220
経常利益	9	367
特別利益		
保険差益	27	1,613
受取保険金	314	-
特別利益合計	341	1,613
特別損失		
固定資産圧縮損	22	1,344
固定資産処分損	44	79
減損損失	2	1
災害による損失	522	0
その他	6	-
特別損失合計	599	1,426
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△247	554
法人税、住民税及び事業税	991	1,333
法人税等調整額	△1,099	△976
法人税等合計	△108	357
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△139	197
非支配株主に帰属する四半期純利益	138	200
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△277	△3



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△139	197
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	101	△115
繰延ヘッジ損益	△94	-
為替換算調整勘定	63	13
退職給付に係る調整額	△33	△56
持分法適用会社に対する持分相当額	12	△11
その他の包括利益合計	49	△169
四半期包括利益	△90	28
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△224	△175
非支配株主に係る四半期包括利益	134	204

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	段ボール	住宅	運輸倉庫	計		
売上高						
外部顧客への売上高	40,854	16,434	11,199	68,488	—	68,488
セグメント間の内部売上高 又は振替高	337	3	1,996	2,337	△2,337	—
計	41,192	16,437	13,196	70,826	△2,337	68,488
セグメント利益又は損失(△)	2,101	△2,564	534	71	△366	△294

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△366百万円には、セグメント間取引消去35百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△402百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	段ボール	住宅	運輸倉庫	計		
売上高						
外部顧客への売上高	43,941	13,495	11,226	68,663	—	68,663
セグメント間の内部売上高 又は振替高	180	75	2,122	2,378	△2,378	—
計	44,122	13,570	13,349	71,042	△2,378	68,663
セグメント利益又は損失(△)	2,093	△2,460	716	350	△401	△50

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△401百万円には、セグメント間取引消去13百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△414百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。